

第6回 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会 議事録

■日 時 2017年2月9日(水) 17:00～19:00

■場 所 札幌市役所本庁舎地下2階 1号会議室

■参加者 委員：小澤 丈夫／北海道大学大学院工学研究院教授
平井 卓郎／北海道大学名誉教授
角 幸博／北海道大学名誉教授
池ノ上 真一／北海道教育大学函館校国際地域学科准教授
川上 佳津仁／札幌市市民文化局文化部長

オブザーバー：熊澤 栄司／北海道教育庁

生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ

渡辺 一幸／北電総合設計株式会社

川上 雅彦／北電総合設計株式会社

宮越 達也／北電総合設計株式会社

木本 浩司／北電総合設計株式会社

金盛 貴浩／株式会社ディー・ジェー・ワールド

石郷岡 哲也／株式会社ディー・ジェー・ワールド

小林 航／札幌市局建築部建築工事課

吉野 聖／札幌市中央区土木部維持管理課

事務局：榎引文化財課長、青木文化財課係長、田村

株式会社K I T A B A：窪田

傍 聴：2名

1. 開会

(榎引課長)

- ・旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会を開催する。

2. 展示及び内部サインについて(資料-3)

(小澤委員長)

- ・次第2、展示及び内部サインについて資料-3より。まず資料の説明をお願いします。

(事務局)

- ・本日は、こちらを主議題とさせていただきたい。今回内容について大体のものを確定して、次回の委員会で修正したいと考えている。
- ・資料を作成したディー・ジェー・ワールドよりご説明をお願いします。

(株式会社ディー・ジェー・ワールド)

- ・スケジュール及び前提となる考え方、目次は前回の資料でも説明したが一応つけてある。
- ・前回の検討委員会のなかでも、色々と議論させていただいたが、展示・サインの検討概要というところで、今回展示する場所に合わせて大きく5つのカテゴリーに展示を分け、これらをどういった場所に展示していくか検討させていただければと思っている。
- ・カテゴリーAに関して、こちらは施設内のインフォメーションということで、施設内のマップ、年間スケジュール、開館休館日の予定、貸し室情報、利用規約、予約スケジュール情報などを検討している。また、そのなかで、三菱鉱業寮及び旧永山邸を保存するという札幌市の取組や保存している意味を入口で来館者さまにご案内できればと考えている。
- ・カフェスペースの案内もインフォメーションでさせていただきたいと思っており、イベント情報やメニュー情報、あとは、全般的な外国人利用者のためのサインということで、他言語対応をさせていただく。

- ・その他のサインとして、トイレや「こちらが展示室です」といった看板を考えている。
- ・カテゴリーBに関しては、本体のメインである旧三菱鉱業寮についての情報アナウンスを考えている。
- ・旧三菱鉱業寮の沿革や歴史的価値ということでゆかりのある資料、建築的価値をお伝えする展示、北海道開拓ということで、三菱鉱業と産業の発展といった歴史的な内容のものを展示する。
- ・施設の内外観ということで、現在、永山邸の模型はあるが、旧三菱鉱業寮の模型はないので、こちらの製作も含めて展示を考えていきたい。
- ・カテゴリーCは旧永山武四郎邸ということで、永山武四郎さんの実像や沿革、あとは旧永山邸の建物の歴史的価値、また、北海道の開拓ということで、屯田兵と永山武四郎さんの関わりについて展示する。
- ・施設の内外観で現状考えているのは、現存している模型の展示を考えている。
- ・カテゴリーD。苗穂地区・北3条界限及び札幌市内の歴史及び建造物のご紹介。旧三菱鉱業寮や旧永山邸の2つが別の時代の、別の建物、別の登場人物であるにも関わらず同じ場所に存在して、旧永山邸をどういった経緯を辿って旧三菱鉱業寮になっていったかという関わりの部分。札幌市発展のために担ってきた苗穂地区・北3条界限の役割。札幌市発展の中心的な場所であったということのご案内。それに関わる関連資料の本や歴史的建築を展示資料として展示する。
- ・あとは、洋風建築というところでモダンな造作物のご紹介。札幌の文化財ということで、この旧永山邸・旧三菱鉱業寮以外の歴史的資産をご紹介するものと考えている。
- ・カテゴリーEに関しては、札幌市民・札幌を訪れた方々が作っていく、伝え続けていく、活用し続けていくというところに主眼を置いた展示を考えている。
- ・こちらは、施設に観覧に来られた皆さま方のご様子や貸し室の利用風景。あとは、公園の活用の様子。実際に結婚式の記念写真などが撮られることがあるので、そういったものの展示。
- ・また、将来的に見れる自分自身を撮るような、未来への映像やコメントを展示できればと考えている。
- ・それぞれイメージ的に絵を載せたが、これを使うというわけではなく、こういったものを展示しながら皆さまに情報をお伝えすることを考えている。
- ・次に、実際にこれらの展示をどの場所で、どのくらいの大きさのものとイメージを作った。資料の一番左下のところに「※旧永山武四郎邸」と書かれているが、いま地図に載せている部分は旧三菱鉱業寮の部分。ここから入って右の方に行くと旧永山武四郎邸がある。
- ・まず1階部分について、①は入口入ってすぐ右手側。インフォメーションボードということで、テーマとしては施設内の基本的なインフォメーション及び札幌市の歴史的建造物保存・活用に対する想いと、ここを拠点にしてどんどん建物を保存・保全していくという活動方針などをこのなかでアナウンスしたい。タッチ型の大きめのサイネージで、ウェルカムボードや館内マップ、歴史的建造物保存・活用の意味、貸し室情報、カフェスペースの情報のご案内を考えている。
- ・②はインフォメーション1ということで展示室がある。まずこちらが旧三菱鉱業寮であるということを、いかに①の場所で伝えるか。左に行くと旧三菱鉱業寮ですよ、右に行くと旧永山邸ですよということをどういうふうに伝えていけるかというのが①の1つの大きな役割になってくる。
- ・左に進んだあとに旧永山邸の話にどこまで触れていくかということについて、今日この場でご相談させていただきたいと思っている。永山武四郎さんの実像・写真などを旧三菱鉱業寮側に飾った方が良いのか、もう1つはこの地図のなかに※で書かせていただいているが、旧永山武四郎邸の方に永山武四郎さんに関する情報を少し展示することを考えていった方が良いのかということ、このあとご相談させていただきたい。
- ・②の方に進むと、現時点では旧三菱鉱業寮のパネル展示を考えている。三菱鉱業の沿革や歴史的価値、建築的価値などをパネルでご案内する。次ページの写真のようなイメージ。
- ・①は大きめのタッチ式のサイネージ。
- ・②はパネルで旧三菱鉱業寮に関する情報を展示する。

- ・③、④、⑤が展示室のなかに展示するもの。③に関しては、三菱鉱業と産業の発展についてパネル展示をする。④は、旧三菱鉱業寮と旧永山武四郎邸の関わりについて、双方の模型を衣装ケースのなかに入れて飾るもの+小さめのタッチ式のサイネージで情報をお伝えする。タッチ式のなかには、旧永山武四郎邸の概要や旧三菱鉱業寮の概要、あとは歴史的価値として「こういった建物がこういう価値があるものです」というところ+札幌の文化財、歴史的資産について少しご紹介する。⑤は、こちらも衣装ケース+デジタルサイネージで、タッチ式ではないデジタルサイネージでゆかりのある資料、レプリカなどを展示する+北海道の開拓、三菱鉱業の産業発展に関する情報を映像として来館者さまにお伝えする。隣の資料右下で大きめのディスプレイによる映像によるご案内ということで考えている。
- ・ここまでの段階でカテゴリーのB、Cを中心に展示室のなかでのご案内して、⑥廊下に行きカテゴリーDのご案内で、パネル展示+動画のサイネージを考えている。
- ・パネルは、年代順の産業の発展や札幌の街並の移り変わり、旧三菱鉱業寮と旧永山邸との関わり、札幌市発展のために担ってきた苗穂・北3条界隈の役割をパネル+映像としてのデジタルサイネージで、札幌の産業のはじまりや札幌の街並の風景ということのパネル+映像でのご案内する。
- ・2階は全部で4カ所。
- ・上がってすぐ右手のところ⑦で、もう一度インフォメーションをここに展示する。施設内の基本的なインフォメーションなど、①の入口と同じもので、入口をずっと通り過ぎた人達が2階でもう一度ゆっくり情報を見れるということを考えている。
- ・⑧に関しては、ちょうど出窓の部分と、下に行き入って左手に進むと丸窓の部屋があるが、こういったところの洋風建築に関する情報や家具や調度品を置いてゆっくりと眺めていただく空間を作ってはどうかと思っている。
- ・⑨インフォメーションスペース2は、テーマとしては空間。家具・調度品などを置いて少しくつろいでいただける空間や、小さめのタブレット型のサイネージを置き、1階・2階のご説明をゆっくりと書籍やタブレット・サイネージで見る空間にして、あまりごちゃごちゃと大きなものは置かないイメージ。
- ・⑩に関しては、写真やサイネージを含め、施設の利用イメージや市民から集めた写真などを展示するスペースとして活用していく。
- ・2階の展示は入って右手の⑦に入口と同じタッチ式のものを設置する。⑧に関しては、パネルで展示。⑨は書籍や小さめのタブレット。⑩は写真を飾ることなどをご提案をさせていただく。
- ・最後のページにイメージを載せている。言葉として「タッチ型サイネージ」「大きいもの」と言っているのが人の大きさをくらの大きなディスプレイ。「デジタルサイネージ(大)」が、タッチではなく映像を放映するためのディスプレイ。「(小)」が、タブレットよりは少し大きい形のスタンド式のタッチ式のもの。2階で閲覧するものとしてタブレット型のサイネージを考えている。

(小澤委員長)

- ・いまご説明いただいた中で、すでにいくつか検討依頼してほしいというコメントをいただいたので、まず委員の皆さまからこれに対してご意見・ご質問等をお聞きしたい。

(池ノ上委員)

- ・結構ハードの部分で作り込んだなというところと、情報の使い方がどちらかというところと一方通行なのかなというイメージ。
- ・どのような形で伝えるのかまではなかったので、分かりかねるが、そういう意味で言うと、元々の展示・サイン構成案の方針である「まちづくりの拠点・創造性」のところをどういう形で実現しようとしているのか教えていただけるとありがたい。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・この北3条界隈で札幌市のまちづくりの拠点として創造性をもってということだが、まず1階から入って2階に行くテーマ、ストーリーづくりということが今回のサインの重要なポイントになってくると考えている。実際にお客さまが来られて、最初に「ここが旧永山武四郎邸なんだ」と入ってくる方と、「ここが歴史的建造物である」という認識をもって入っ

てくる方がいらっしゃる。1階部分に関しては、一方通行な形になるかもしれないが、ここがどういったもので、札幌市の考え方、かつてこういうイメージのものが存在していて、いまも存在しますというよう情報を提供する形になる。

- ・まちづくりの拠点ということに関しては、公園や貸し室をどういうふうに利用していただけるか、いかに利用しやすい形でアナウンスするかというところが1つポイントかなと思っていて。そこで、⑩のあたりで実際の利用風景など、こういうふうに使って欲しいというような情報提供ができれば良いと思っていた。

(小澤委員長)

- ・これについて、ここ何年か議論していた中で、歴史的建造物のネットワークが地域住民や観光客へのサービスなどがいままですら十分ではなかったのも、歴史的建造物のネットワークをしっかりと作ってアピールしていこうと、その拠点を作りたいということで議論をしていた。
- ・特にこの旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮だけを新しく立ち上げたというのは、ネットワークを立ち上げるうえでの最初のプロジェクトという位置付けという意味合いがあった。そのために、この辺のあたりを強調した表現になったのか。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・そうですね。悩んだところだが、1階の展示スペースの使い方が1つポイントになってくるのかなと思っている。
- ・そこに永山武四郎邸もしくは永山武四郎さんそのものの情報を多く扱うのか、それをある程度薄くして、「拠点づくり」として札幌市の建築的なものの情報を深く扱うかというところは我々としても悩んでいた。
- ・来られた方が、「拠点づくり」だと思って来られる方がどれくらいいるか分からないが、まずは「三菱鉱業寮だ」「永山武四郎だ」と来られる方々にその情報を薄くしても良くないと思、悩んでいる。

(小澤委員長)

- ・いま言ったことはすごく重要だが、確かに一方的に情報が押し寄せてきて、圧倒されるようだと消化不良を起こすし、そういった印象を受けられたというのはすごく大事なポイント。
- ・いまの根本的な方針を踏まえたうえで、ご意見いただければと思う。

(池ノ上委員)

- ・前回も少し話をさせていただいたが、旧三菱鉱業寮や旧永山武四郎邸であったり、あるいは札幌市の文化財情報であったり、もう少し大きなストーリーみたいな話があったところの情報をどう扱って、誰がどう提供するのか。あるいは、誰がどんな形でその情報にアクセスできるのかというところを基本的に構造設計しておいて、それをこの空間の中でどう表現していくのかというプロセスにしないと、従来のいわゆる「サイン計画」では厳しいと思っている。
- ・やはり創造性みたいなものは、利用者がどうだっというところを決めるよりは、当然今後の指定管理など、管理者・活用する主体が出てくることが想定されているので、そういう人達がこの情報のデータベースをどう活用していただけるのか、そこにどう利用者を巻き込んでいけるのかを考えなくてはいけない。そのときに、この展示やサイン、あるいはもう少しデータベースを活用するシステムや仕組みみたいなものを構築しておいて、それを活用して市民をどんどん巻き込んでいけるようにしたい。
- ・大量にある建物にまつわる情報を、壁を使って同時に表現することは無理。それは本当に一方通行で、ある意味どこかで編集をしないといけなくて、何を伝えるのかという議論をしないといけなくなってしまう。それはある意味無駄。本当に基礎的なものだけは情報として伝えられないという線引きは必要かもしれないが、むしろもっと奥行きのある深い情報や、いま潜在化していてこのメンバーや札幌市さんなどのなかで蓄えられていない情報も市民レベルで持っている情報もここに追加していけることが創造性に繋がると思っている。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・まさにその部分でいま想定しているのが、⑨の2階に上がり、情報を市民の方がどのように提供していただけるか。提供しやすい環境を1つ作るのも、そのインフォメーションが⑨・⑩のなかでは非常に大切なことだと思っている。

- ・例えば、タブレットでその場で自分で写真を撮ってアップするというのも1つの形だし、市民の方々に家に帰ってメールなり、ウェブサイトなりにアップしてもらい、指定管理者の方が採用するものについて簡単に「これは1階の展示室に展示した方が良いもの」「これは2階のタブレットのなかにどんどん埋めていった方が良いもの」といったものを、何か市民の方々にお伝えできるかというところが1つのポイントかなと思っている。
- ・それらを指定管理者の方が運用しやすいシステムづくりを提案したい。

(池ノ上委員)

- ・どうしてもこの取組んでいただいている事業自体が「展示・サイン計画」なので、すぐハードの話になっているのかもしれないが、特に⑨や⑩で表現されている、大型のデジタルサイネージはビジュアル的に表記するもので、そのバックアップとしてデータベースみたいなものがきちんと構築されていくということか。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・今回検討委員会に先立ち、こういったものを準備するのに予算的にいくらかかるのかと、市民の方達が20年、写真やデータを集めていくデータベースを構築するのに大体いくらくらいかかるかという想定はさせていただいた。
- ・そのなかで、予算にはまるかどうかというのものもあるが、市の方とも相談をさせていただいて、これくらいのデータ量のものであれば予算にはまるのではないかなと思っている。

(小澤委員長)

- ・確かに非常に大事なポイントかと思う。例えばある程度展示パネルやサインができた状態で提供されて、指定管理者の方もそれを受け取り、カフェの運用と安全性の面からセキュリティを考えると、そういったものを順次市民から出てくる情報で肉付けしていきながら、データベースと一緒に構築していくという意識がなければ止まってしまう。
- ・それを指定管理者に対しても仕事としてしっかり認識していただかなければいけないし、指定管理者任せにするのではなくて、それをバックアップする体制も必要。

(事務局)

- ・いま仰られたことを大変重く受け止めている。指定管理者に全てを委ねるのではなく、地域の方と一緒にこの施設をどんどん育て、発展させていきたいと考えている。その足がかりとして、地域の方との意見交換会等を継続的に行っていきたいと考えている。その地域の方々に関わっていただくときに、どういう関わり方ができるかという装置をこの展示のなかで用意していただければと思っている。
- ・この資料の中でいくと、1階の①、もしくは2階の⑦・⑨あたりと、そこに特化しているのが⑩ではないかなと認識している。
- ・⑩がまさにこの展示ができあがったときにコンプリートされているものではなく、リニューアルオープンしてから指定管理者と地域の方々との取組によって、結婚式や公園での活動などのここで取組んだ色々な活動をどんどんイメージとしてスライドしていただいて、「こういう取組をしてきたんだ」「こういう使い方ができるんだ」ということを知っていただいたうえで、「じゃあ私達もやろう」「もっとこういうことをやろう」と繋がっていけば良いと思っていた。
- ・そのなかでは、①や⑦では貸し室の使用状況などの情報提供もあることに加えて、今回この取組をなぜやったのか、市としてどうしてこういう取組みをして、今後どういうふうにしていきたいと考えているのかというコンセプトも表示していただいて、そこに指定管理者と地域の方との共同による取組でさまざまな発展、創造していただければと考えているところ。

(平井委員)

- ・これは現地でどういうサインをするか、どういう情報提供をするかですよね。
- ・ところで、これは札幌市さんのホームページで引けるのか。

(事務局)

- ・市の文化財などはある。

(平井委員)

- ・そのなかで、いま言ったパネルの内容などはどんどん提供されていくから、どんどん増えていく。全部をアップするのは当然無理なので、そのうちのこの部分をトップページに「いま

こんなことがあって、最近こんな活動をしています」と、ホームページを編集する側でやるというのはある程度あるのか？

(事務局)

- ・この検討委員会や地域の方との意見交換会などを実施する前とあとにホームページを更新して、情報提供をさせていただいている。ただ、それ以上の深い情報提供は特にしていない。

(平井委員)

- ・オープンしたあと、そこから覗いて貸し室情報などのオフィシャルな情報は当然入る。そうではなくて、「町内でこんなことをしました」と写真がどんどん載っているものだと良い。

(事務局)

- ・リニューアルオープン後については、指定管理者にこの施設専用のホームページを立ち上げていただいて、まさに今おっしゃられたようなことを全てアップしていただく。それプラス、ブログやtwitterなどの何らかの形式でそういう日常の様子もアップしていただくということは想定している。

(平井委員)

- ・イメージとしては、それで何か概要みたいなものがあって、現地に行くともっと詳しいものがあるという形か。

(事務局)

- ・そう。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・現時点で我々が想定しているデジタルの表示に関しても、指定管理者のほうでアップしたウェブページと上手く連携できるソフトウェアというものも想像はしている。こういうシステムを使えばそれほど手間をかけずに指定管理者のほうで作ったホームページとリンクしていける。
- ・情報を色々な方にアップしていただければ、1階のインフォメーションスペースで使う情報に関しても、最初は市で持っている情報しかなくても、「実は私はこういうものを持っているので、どうぞ1階で使ってください」というような情報提供を受けると、それを差し替えられるシステムができれば良い。

(小澤委員長)

- ・札幌市さんのほうで、いままで他の都市も含めてモデルになるケースはあるか。それとも、これはチャレンジングなものか。

(事務局)

- ・施設のコンテンツを地域の方と一緒に支援していくモデルケースは、すぐパッと出てくるものはない。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・バックナンバーやかつての本、新聞などは探すことはできるが、それが1つに整理されているものではないので、探すことができなかった。

(小澤委員長)

- ・景観のほうで、それに近い考え方で色々なことを起こそうとしているので、特定の施設に特化しているわけではないが、はじめてのケースということで作り上げていかなければいけない。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・今回の検討委員会のなかである程度方向性が決まったら、次回最後の第7回の会議では、「こういうシステムを使うことを想定しているが、またご意見をいただけませんか」という話をさせていただきたいと思っている。
- ・⑩のところに表示するためには、こういう仕掛けのシステム、データベースがあると使っていいのではないかとということをご案内させていただきたい。
- ・最終的に設計業者や指定管理者との合意にはなるが、現時点でこの会での意見としては「こういうものが入ると、よりいままで検討してきた内容が伝えられるのではないか」というところで、システムについてご提案させていただければと思った。

(小澤委員長)

- ・細かい展示パネルの内容はいくらでも調整が利くので、ここはいま大事な部分。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・根幹となる部分のデータベースやいまおっしゃられていたようなもの、また費用的にかかりそうな模型については積算したいと思っている。

(川上委員)

- ・その通りだと思う。旧永山邸と旧三菱鉱業寮と、いま現在までの価値というのは建築的な価値や、屯田兵などの色々な歴史の価値がいままで評価されてきている。これからリニューアルして、未来に向けた旧三菱鉱業寮・旧永山邸でどのような価値を作っていくか、やはりそこで人が集まって、さまざまな活動が行われて、その積み重ねがまた新しい価値に結びつくと思う。そういったものを展示、あるいはデータベースという形でいかに積み重ねていくのかというのが非常に肝だと感じている。
- ・それと先ほど一方通行というお話があったが、やはり両方向になると、単に展示物を展示するだけではなくて、例えばそこでボランティアさんが来て、ここのお話をすると、興味を持った市民の方が永山について勉強してみようかなと思ったり、勉強した結果をこういったものにまとめてみましたなどと活動したりするのが旧永山邸の新しい価値になるのかなと思う。そういう市民レベルの積み重ねをいかにやっていくのが大事。ソフト事業というか、どういうことをやっていくのが非常に重要なと思う。

(角委員)

- ・先ほど質問されていたまちづくりの拠点というのは、こちらの貸し室を単純な貸し室ではなく、地域の方が集まって、ディスカッションがあったり勉強があったりと、積み重ねで価値を高めていくと考えていた。
- ・ここをベースにしたら札幌市内の他の歴史的建造物の情報やネットワーク、場合によっては行き方などといった情報になる。
- ・創造性というところが私の中では難しい。いまお話されたことも大きく言えば創造行為だが、いざ具現化しようと思うと難しい。

(池ノ上委員)

- ・私のイメージは、この場合創造を英語にするとイノベーション。まったくの白紙からの創造ではなく、ここにある歴史的背景や文化などが大前提で、それをデータベースみたいなもので共有できて、オープンにすることで要素として作れるということかなと思う。イノベーションは、元からある要素がこれまでとは違う組み合わせ、新しいコンビネーションになることだと思うので、そこでまた新しい価値が生まれることだと思う。
- ・いままでこういう歴史的な要素と空間の使い方みたいなものなかで、見学施設という価値があったとする。だけど、貸し室や、あるいはそれが積極的に知られていくような管理運営の中でのワークショップを仕掛けていく仕組みができることで、いままでここに来なかった人が来て、その歴史的要素を使って、何か調べる、それを使って商品づくりをするなど、何か新しい市民活動の努力ができるだけでも良いかなと思う。
- ・暮らしが豊かになる、あるいは経済的価値が生まれるなど色々なものがあると思うが、そういうところでどう繋げるかというのは、環境を準備することと仕掛けをすることくらいしかできないと思う。あとはその行われた活動をどうデータベースとして、新たに追加していくか、ということくらいしかできなくて、あとはどう生まれるかというのは誰も分からない。生まれる環境を作ることはできる。

(角委員)

- ・それともう1つは、今回の展示の空間のなかで、カフェスペースは基本的に外側に対するものなのだが、例えば美味しいコーヒーを飲みながらここで情報を共有できるといったシステムがあればそれも有りかなと思う。何か少しもったいない。
- ・単純に、普通にコーヒーを飲みにくる人もいるけれども、この空間のなかに浸ってコーヒーを飲みたいときに、歴史情報など何かしら提供されるような環境づくりができると良い。
- ・それはもしかすると単純にWi-Fiで、自分のiPhoneで見るというのもあるかもしれないが、もう少し何か積極的に仕掛けられても良いかなと思う。

(池ノ上委員)

- ・よくあるサイエンスカフェや最近だと縄文カフェなどのヘリテージカフェ的なものもある。

(角委員)

- ・少し特徴のあるような仕掛けがあると、例えば新聞で取り上げられたりするかなと思った。この空間がもったいない。

(小澤委員長)

- ・一階のカフェに展示物があれば手にとって頂けるかもしれないし、何か映像が映っているだけでも刺激されるものがあるので、カフェの中も一緒につかっっていけば良いかもしれない。

(角委員)

- ・建物全体の一体化のようなイメージ

(株式会社ディージェーワールド)

- ・区分けがものすごく悩んでいる。

(角委員)

- ・ただ、展示室としてある空間のなかでは、多少永山邸と三菱鉱業寮の歴史について、三菱鉱業があとで建ったという歴史は学んだ方がよい。確かに永山武四郎そのものの実像は永山邸の方にあった方が分かりやすいかもしれない。
- ・このあいだ現場を見て、玄関の正面は大きな壁ができていますが、その裏側の部屋がいまは物置になっているが何も無いような状態。しかも、痕跡があったから復元したが、よく分からない戸棚がある。ここのところは特にいま何も使ってなかったもので、ああいうところに面白く組み込まれているなど、そのくらいの使い方もしても良いのかなと。
- ・道の有形文化財はそういうのをいちいち道の方にチェックしてもらわなければならないのか。

(事務局)

- ・道の教育委員会さんをご相談させていただく形になると思う。

(北海道教育庁)

- ・展示であればとても軽微なものなので、許可は不要と考えている。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・そうした方が、②の場所に永山武四郎さんの実像があると「これ永山武四郎さんの家なのだ」と完全に勘違いしてしまうと思う。
- ・実像や、基本的な背景や歴史的なものは永山武四郎邸側の方にできればと思う。
- ・途中の廊下という選択肢もあったが、スペース的に厳しい。

(角委員)

- ・確かに狭い。あそこに滞留されると人が流れない。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・壁は少しあるが廊下自身も結構狭い。

(小澤委員長)

- ・文化財課のほうからもご指摘があったが、冬期は落雪の関係で永山武四郎邸の方が入口になっている。

(事務局)

- ・これまでは三菱鉱業寮が冬期は落雪の恐れがあるために永山邸の方を入口にしていた。今回の工事でそこが特に変わるという状況ではないことから、今後もいまの段階ではそういう運営を想定している。

(角委員)

- ・冬の方が永山邸に入れる雰囲気。
- ・夏と冬に入口を変えることでリピーターに繋がるかも。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・そのときにどちらから入っていただいても、ある程度短い時間でわかっていただけるようにしなければいけない。

(角委員)

- ・インフォメーションがこちらまで行かないと分からないから、永山邸から入ると困る。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・右が永山邸、左が三菱鉱業寮、展示スペースは左側にありますなど、小さな看板は出さないといけないと思っている。

- ・入口が変わるというパターンは我々も考えていなかった。
- (角委員)
- ・相当ひどいアクセスになるかもしれない。
- (平井委員)
- ・常に入口のところの雪下ろしをしていれば良いが。
- (角委員)
- ・永山邸から入ってきたら勉強は後付けになるのかもしれない。
- (平井委員)
- ・ここが永山邸だということが分かるようなサインだけは必要。
 - ・渡り廊下を渡ると違う建物になると分かるだけのサインも必要。
- (小澤委員長)
- ・2つくっついたものであるということで、どちらがどちらと最初から分かるようにした方が
良い。これはどちらの入口から入っても分かるようにしておかないといけない。
 - ・①でご提案いただいているタッチ型大型サイネージを冬と夏で動かすことはできないか？
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・動くものは想定している。ここに設置しているものは、実際に運用していくなかで変えなければならなくなるとしており、動くものは想定している。
 - ・冬になったら右側の永山邸側の方に寄せることもできる。
- (小澤委員長)
- ・むしろ①がウェルカムのサイネージであるとする、冬は永山邸側に、夏は三菱鉦業寮側に
するとスッキリする。
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・最終的にどうなるかは分からないが、ウェルカムのすぐ脇に地図があって、建物の平面図が
あって、右が永山邸です、左が三菱鉦業寮ですというサインは最低でも出さなければいけな
い。それにプラスで、カフェの情報など触ったあとに次の情報が出てくるようなもの、基本
的なコンセプト・地図・ウェルカムという3つが標識として出ていないといけないと思っ
ている。
- (角委員)
- ・委員長が言われたように、あまり事例がないのを逆手にとると面白いものになるかもしれ
ない。
- (小澤委員長)
- ・そういうふうにできれば、永山邸の情報を永山邸側にできるだけ集めて分かりやすくする
という基本方針になると思う。
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・関わりを持つものは多少三菱鉦業寮側の方にものせていくような形。
- (小澤委員長)
- ・少し話が戻るが、池ノ上先生がおっしゃっていたイノベーションという言葉は重要なキー
ワード。そういったイノベーションの場であるような宣言のようなものをして良い気がする。
従来の見てもらう展示だけの建物ではなく、そういうものをやっているというのを最初に強
く示すと意識も変わっていただけるかと思う。
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・いらっしゃいませと地図と想いをどういうふうを活用していくか。どういう場所なんだとい
うのを表紙のなかで表現できればよりインパクトが持てる。
- (小澤委員長)
- ・そのあたりも検討いただければと思う。
- (角委員)
- ・5ページのところで、2階の⑧のパネルがおいてあるが、現状納戸のところは建具がなくな
って、連続した空間にする。せっきく連続空間にするので、⑧のパネルの位置は良くない。
 - ・納戸のさらに奥。そこに壁面があるのでこっちに置いた方が良い。
- (株式会社ディージェーワールド)
- ・ご指摘の通り、この空間の使い方も我々の悩みのひとつ。

- ・ただ空間としておくというのもひとつの手段だとも思っているし、何かサインを入れるというのもひとつの手段。特徴的な窓であったり、出窓のスペースというのはインパクトのあるスペースではある。たしかにこの壁面を使うというのもひとつの手段。

(角委員)

- ・前に、2階の応接スペースみたいなところをそのままの空間で使いたいという話があり、この壁面に何か飾るとするのは無い方が良いという話があった。その分をこちらの納戸側の壁にあれば進む人が滞留してくるので良いのでは。

(平井委員)

- ・この部分ができるだけそのまま残っていて、建物自体を体験できる空間にして、その分をこちらに移した方が階段が上がったときの感じが良い。
- ・情報がたくさんあるから壁面はいるが、あまり写真などがありすぎると疲れるかなとも思う。

(角委員)

- ・丸窓をまず見せたい。
- ・それ以外にあまり要素はないので、例えば札幌のモダン建築などのテーマがあると、丸窓がこうしてできたなど面白いソフト面ができるのではないかな。

(平井委員)

- ・そこに引き込んで、パッと横を見ると丸窓があるという感じで、みんなが見過ごさないように、そこに目が向くようにする。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・あそこは階段が上がっても丸窓があると気付かずに一瞬スルーしてしまう。

(角委員)

- ・であれば、もう少しゆったりと計画ができるのではないかな。

(小澤委員長)

- ・話が変わるが、市民の方に展示をしていただくようなものもある。

(平井委員)

- ・そうですね。ちょうど良い大きさかもしれない。

(小澤委員長)

- ・コンパクトで、このままでも構わないし。
- ・常設展でなく入れ替えでも構わないが、もし札幌の歴史的建造物のようなものをピックアップできるなら、そのあいだに市民の方の作品などを入れていけば良い。

(平井委員)

- ・この建物の経緯を考えると、この建物を一回りしているあいだに昔からあった材料から最先端の何とかボードまで、特に北海道だから火山灰など、日本の材料の歴史が分かる展示はどうか。いまさらだが。

(小澤委員長)

- ・この場所だと、産業系のものを積極的にやっていくという方策はあるかもしれない。

(川上委員)

- ・2階の⑨空間の使い方だが、ここは和式で結構ゆったりした空間で、腰を落ち着けてじっくり見ようという雰囲気だと思う。このなかにひとつ、子ども向けのスペースを意識した方が良いのではないかな。我々は文化財などを説明しているなかで、大人に対しては色々しているが、子どもに対して文化財はあまり知られていないという声を聞く。学校教育のなかでやっているのと出前講座でやっているくらいなので、せっかくここを作るのであれば、子ども達に来てもらって歴史の勉強を少しでもしてもらえそうな資料等を揃えていくのは必要と感じた。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・⑨の部屋は確かにまだ性格がはっきりしていない部分があり、書籍などを展示するというアイデアはあるが、どういった方をメインターゲットにするかを詰められていない。
- ・多少でもこの辺が絞れてくると、この部屋あるいは展示物に合わせて家具、テーブルのようなものを作り込んだりすると非常に協調性が高くなり、みなさん居心地がよくなるかなと考えていた。

(小澤委員長)

- ・インフォメーションスペースに対してアイデアなどあるか？

(池ノ上委員)

- ・いまの子どもという話で、函館みらい館では、最初はアトラクションとして来る子ども達が多いが、継続してリピーターで行く子ども達の話の話を聞いていると、ワークショップが目的である。野菜で乾電池を作るという科学的なものから、色々なテーマがあるが、「何かものを作れる」「あそこに行ったら色々作らせてくれる」となっている。
- ・先ほどの什器の話も含めると、そういう子ども達にここが持っている歴史的な情報や色々な関係、あるいは札幌市全体の情報などを使いながらできるワークショップは良いかもしれない。どういうワークショップかというところには思いつかないが、何かちゃぶ台などがいくつかあって、そこに行くとか何か作れるみたいなことがあると、継続して来てもらえるのではないか。
- ・うちの教育大のひとつのグループは、小学校のアフタースクールなどで一緒に学生達と交流をしているが、子ども達は元気に遊ぶとなると身体を動かして遊びたがる傾向がどうしても強く、管理側が達人なら良いのかもしれないが、そうするとこの建具・襖など含めて傷めてしまう可能性があるため、できるだけアクティブではないけれども、子ども達が来たくするような仕掛けができると良いと思った。

(角委員)

- ・このあいだ、ファニチャーについては最初から入れる予定でやると、いまの予算だと難しいだろうという話だった。そうすると、このファニチャーを入れるためのファンドを、市民の人達とつくるのもありうるのではないか。息の長い話だけれども、市民達のファンドで何かやっていこうというのに関わり合いとしては面白いと話をしてきた。
- ・最初から完全な姿でプレゼンテーションするのではなくて、「何かここ使いづらい。テーブルあったら良いかも」「じゃあ市民の寄付を募ろう」というのもあるかなと。最初から市の決められた予算のなかでやっていくと、きっと無理なのではないか。

(池ノ上委員)

- ・むしろそれも活動のコンテンツにしてしまう。

(角委員)

- ・そういう展開の仕方も面白いかなと思う。その辺も指定管理者との調整になるのかもしれない。

(小澤委員長)

- ・作り込みすぎないというのは大事。

(角委員)

- ・少し不満があった方が良いのかな。
- ・このあいだ市としてはリノベーションしたからなるべく綺麗に見えるようにという話があった。あれだけの税金をかけて「どうなの？」と言われたくない気持ちも分かるが、なかなか難しく、全部綺麗にすることはできなくはないけれども、例えばなかの傷はそのまま残しておこうなど、その辺のメリハリがあっても良いと思った。

(小澤委員長)

- ・実際、どういう風に利用されて、どういうふうにしていくのが良いか。

(角委員)

- ・いままでみんな、どちらかというと大人の目線でずっとあの空間を考えていた。永山邸では、地域の子も達が入り込んで色々やっていたり、あそこで宿題をやっている姿があったり、そういうものを残したいというのもある。

(小澤委員長)

- ・子ども連れの、小さな暴れ回りそうな子どもも結構頻繁に来ている。

(事務局)

- ・公園が子育てサロンなどで頻繁に利用されている。
- ・あとは、放課後の小学校低学年～中学年くらいの子ども達が公園で遊んでいて、そのついでに施設にいる警備の方と遊んだり、お話をしたりという光景はこれまでもあった。
- ・それを良い形で引き込んでいけるようになれば良い。

(小澤委員長)

- ・子どもというのはひとつの大事なキーワード。そういうのも入れつつ、固めすぎないようにまとめる。

(角委員)

- ・難しいですね。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・正直子どものところはまったく想像していなかった。いまお聞きして「なるほどな」と思うと同時に「難しいな」とも思う。確かに子ども達が集まってくるスペースになると建物自体に活気が出てくる。

(小澤委員長)

- ・ある程度備品の目安をつけるのも検討のひとつの大きな目的だが、そういう言葉でしっかり抑えていきたい。
- ・貸し室の利用情報というところも絡んではきますよね。

(平井委員)

- ・7分目、8分目にしておいて、あとは使いながらそこに来る人達にとって良いように。
- ・幸い今回パネルが紙に字が書いてあるものではなくて、デジタル系の機器がたくさんあるので、中身はいくらでも変えられる。

(株式会社ディージェーワールド)

- ・展示品自身も市民が作っていけるような空間になるのかなと思う。

(小澤委員長)

- ・他にご意見がなければ次の話題に移りたい。よろしいか。
- ・次第3、管理運営の詳細について資料-4のご説明をお願いします。

3. 管理運営の詳細について（資料-4）

(事務局)

- ・前回、今後検討していきたいということで頭出しさせていただいた内容を整理したもの。前回でご承認いただけたものについては、項目として省いており、今回ご議論いただきたい項目を5つ入れさせていただいている。
- ・1番目の貸し室の貸出単位について。1時間単位にするのか、それとも午前・午後・夜間の3区分にするのか、それとも1日単位にするのかというパターンをどうしようかというご相談をさせていただいた。色々検討を踏まえ、並列する形で3パターンの料金区分を設定するご提案をさせていただいている。
- ・時間単位の場合の試算金額として、3つの部屋はそれぞれ700円・1000円・500円。前回お話しした通り今後庁内で調整していくので、おそらく変わると思うが、この規模感で推移していくだろうと思われる金額。
- ・これを、午前・午後・夜間の3区分にした場合、この1時間あたりの金額に時間をかけて1割引。日単位の場合は、単価に時間をかけて2割引とするという料金設定をして、利用者の方に色々な使い方をしていただくようにしてはどうだろうという提案になっている。
- ・この形をとったときに懸念されるのは、運用側で手続き等が大変になってくること。
- ・近隣の行政・民間施設の貸室利用形態・料金を参考とするということで、うしろに参考資料-1としてつけさせていただいている。こちら行政の施設、民間の施設の同規模程度のものを参考としている。これを見ると、色々な貸室の料金形態があり、併用型もあれば、帯貸しに限定しているものもある。時間単位のものもあるとさまざまな状況であり、どうしなければいけないという決まりが特にあるわけではない。
- ・料金設定を見ても、行政の貸室と比べて妥当な金額、もしくは少し安いぐらいの金額帯であろうと考えている。
- ・2番目の開館時間について。9時～22時までとするご提案。前回の検討を踏まえ、一旦設置条例のなかで開館時間を定めなければいけないので、そのなかで9時～22時と開館時間にし、そのなかでカフェレストランを何時から何時まで営業するのかというのは事業者との相談と地域の方との兼ね合いも配慮しながら弾力的に決めていくという形はどうだろうか。基

本的には、カフェレストランも9時～22時という営業帯だが、場合によっては昼11時～夜9時くらいまでの営業も十分にできるような仕組みにしてはどうか。

- ・3番目、撮影料を導入することについて。前回さまざまなご意見をいただいたのを踏まえ、永山邸での撮影、もしくはイベント等を行う場合、占有はできないこととし、観覧は常時できるという条件下において承認する形はどうか。これは、例えば結婚式の前撮り撮影をしても、観覧者が来た場合は撮影されている様子を見ながら館内の状況を見る。もし観覧の妨げになるようだったら、撮影されている方に避けてもらうなど、そういう現場での対応をしながら使っていく形はどうか。
- ・撮影料については、文化財課としては新たな試み。もし撮影料を導入する場合には、都市公園条例のなかで営利目的の場合に限り、1日につき映画31,000円、テレビ15,000円、写真1,500円という料金設定がされている。他にもジャンプ場などの施設で撮影料を取っているところはこの金額帯を準用している形になっており、導入するとしたらこの金額帯はどうだろうか。これは公園敷地での写真撮影もあわせて指定管理者のほうで許認可行為を行うということを経験して、公園の条例に定められている考え方に基づいている。
- ・4番目のソフト事業。これまでお話出ている通り、単体で考えられるものではなく、展示や貸室等も一緒になって考えていかなければいけない。この施設をどういう施設にしていけるか、どういう使い方ができるかというのを札幌市から指定管理者へ提示して、当初は一緒に取組んでいながら、地域の方とも取組んでいけるようにどんどん流れを作ってきたと思っているので、色々なパターンを考えておいた方がよい。
- ・これは次の議題にも絡んでくるが、参考資料-3ソフト事業のイメージとしてつけている。永山邸ではこれまで色々なことをやってきており、まち歩きの中かのひとつの施設であったり、施設のガイドツアー、ワークショップ、我々の意見交換会の会場として使ったりと実験的に使ってきている。今後は、他都市・他施設の使い方も参考にしながら、色々な使い方ができる要素があるのではないかと思うので、こういう他施設のものを参考にこれからここでどういうことをやっていけるか、どういうことをやっていこうかということアイデア等あればいただきたい。
- ・5番目、アドバイザー会議の位置付けについて。前回お話いただいた内容を踏まえ、図式化した形で位置付けについて整理をさせていただいた。なぜアドバイザー会議を設置するかについては、指定管理者・市の担当者等が今後変わっていくにつれて、今回の事業のコンセプトが損なわれることなく、適切に保存・保全活用が行われていくことを目的として、そのときの状況に応じて適切なアドバイスをいただきたいというのが趣旨。この会議の位置付けとして、札幌市市民文化局のなかに位置付けられる会議。いまの検討委員会と同じような形の組織の位置付けにしてはどうか。市のほうで、年1回程度定例的に招集させていただき、状況の報告や今後の計画、状況に応じたアドバイスをいただくという場にできればと考えている。この会議は、指定管理者と関わる場というのも考えており、指定管理者のほうでは、運営協議会というもの必ず最低年2回開催しなければならない決まりになっており、そのなかでは指定管理者としての具体的な管理運用について協議する場になっている。そこにアドバイザー会議から1名～2名ご参加いただき、こういうコンセプトに基づいたご意見をいただいて、指定管理者の運営状況も共有していただく形ができると良い流れができると考えている。
- ・このアドバイザー会議については、みなさんご了承いただければなのだが、平成29年度の早い段階で設置をして、工事を進めていくにあたって相談させていただきたい事項があったときに、アドバイザー会議というお立場からご助言をいただければ非常にありがたい。さらに、30年度以降については、現在豊平館のアドバイザー会議というのを設置しており、この豊平館のアドバイザー会議と合わせた組織として、例えば豊平館・永山邸アドバイザー会議という形にして、相互の施設の情報共有など連携して行っていけるような場にできればと考えているので、ご意見をいただきたい。

(小澤委員長)

- ・まず貸室の貸出単位についてご意見等あるか。

- ・大体いままでの経験値と比べても妥当なところではないかということでご提示いただいている。
- ・ちなみにこれは今日で決まるということか？

(事務局)

- ・最終決定ではないが、今回である程度方向性を確定したら、それに基づいて庁内の色々なところと協議を進めていきたい。それを踏まえて、次回の委員会で最終決定したい。

(小澤委員長)

- ・外に色々情報が出ていくようだと、あまりくるくる変わるといけない。
- ・1番と2番を一緒でも良いと思うのだが、1番貸室の貸出単位、2番開館時間9時～22時までということでご提案いただいているが、何かご意見・ご不明な点などあるか。

(角委員)

- ・午前・午後・夜間の区分の時間の切り方はどうなっているか。

(事務局)

- ・9時～12時、13時～16時、17時～22時。これは事務局案。

(池ノ上委員)

- ・減免措置についてはどう考えているか。

(事務局)

- ・減免措置については、時計台や豊平館などの他の指定管理者施設では要綱という形で定めて「こういう場合は減免する」というのを列記している。それに当てはまる場合は、現場の指定管理者さんのほうで減免措置を行っていただく。
- ・それを準用して、永山邸でもそういうものを市で整備して指定管理者さんに運用していただく形を想定。

(池ノ上委員)

- ・適用される場というのは、市の主催・共催。それ以外にはどんなものがあるのか。

(事務局)

- ・市の主催・共催時には原則的に減免。あとは指定管理者の主催・共催事業も減免。そのほかは、福祉の観点からご利用される方、福祉の色々な要件をお持ちの方がいらっしゃる場合や教育の場として使われる場合は減免など、色々内容があり、現段階では永山邸どうするかという具体的などころまでは考えていないが、減免措置をするということは考えていた。

(池ノ上委員)

- ・カフェを貸切にしたいという場合はどうなるか。

(事務局)

- ・カフェを貸切したい場合は指定管理者と協議した上でカフェの事業者さんの判断次第かと思っている。
- ・例えば、結婚式の0.5次会というお話もあったので、カフェで何かやりたいときはできるような整備はしていくべきかと考えていた。

(川上委員)

- ・利用者側にとってみれば、3パターンあった方が非常に使い勝手が良いと思うが、運営管理側からすると非常に大変なのではないか。
- ・時間貸して午前の一部だけ借りて、残りの時間帯は使わない場合など、どちらが効率的か分からないが、管理する側からすると厳しい部分があるかな。
- ・市内の貸室情報を見ると、帯貸しプラス全日貸しというのが大部分を占めている。

(小澤委員長)

- ・細かく分けたのは、短い時間で気軽に借りていただきたいという思いがあるということか。

(角委員)

- ・2時間だけでいいときに全部借りないといけないのはつらいという話が出ていた。微妙なところ。会議は大体最低2時間で前後30分借りると3時間になる。
- ・色々大変だなという話もあった。例えば、町内会レベルだと1時間で終わるのがどうしても伸びたりすると、細かいことだけれど少しでもお金を安くしたい。姿勢の問題かなとも思う。

(小澤委員長)

- ・1回運用して、状況に合わせて、指定管理者の意見を聞きながら変えるというのは手続き的には難しいのか。

(事務局)

- ・貸出単位を決めるとすると、条例のなかで定めなければいけない。条例のなかで定めて、その指定管理者がどう運用するかというところで札幌市の協議はあり得るが、原則的には条例で定めた通りにやっていただくのが通常になっている。

(小澤委員長)

- ・変えるとなると議会マターになるのか。

(事務局)

- ・理由が必要になってくる。

(角委員)

- ・逆に時間貸し、帯貸し、1日単位とフルスペックにしておいて、時間単位については指定管理者側では難しいとなったときに、条例自体は生きているが、時間単位は運用しない、といった運用の仕方は抵触するのか。

(事務局)

- ・不可能ではないが難しいところがある。
- ・市のほうで提示して「こうやってください」というものを上回のご提案をいただくのはいいのだが、下回るといふか、指定管理者のほうで大変なのでやめますというのは難しい。

(角委員)

- ・それをのんで指定管理者に応募するのだから。

(小澤委員長)

- ・部屋数もそこまで多いわけでもない。

(角委員)

- ・いまだとエクセルなどあって自動計算してくれる。

(平井委員)

- ・そういう形はできると思う。指定管理者はそのかわりカフェ時間の活用を前倒しするなど。
- ・夕方と午後のあいだも必ず1時間空けてある。それをまたいで使おうとすると1日単位しかないのか。

(事務局)

- ・またこうとすると1日単位になる。

(平井委員)

- ・例えば、11時～14時までとなると時間借りもできないのか。

(事務局)

- ・時間借りはできる。

(平井委員)

- ・12時と13時のあいだも借りることができる。

(事務局)

- ・時間貸しの場合は借りることができる。

(平井委員)

- ・そうすると問題ないか。

(平井委員)

- ・帯貸しにしたときは昼食時間帯は帰ることになるのか。

(事務局)

- ・帯貸しにしたときは、12時～13時をまたげないというのがネックではある。

(平井委員)

- ・ではやはりこれも残しておいた方が良くもしいない。

(小澤委員長)

- ・そうすると1日借りないといけなくなる。

(平井委員)

- ・16～18時までの高齢者の早い夕食会などがあるかもしれない。

(小澤委員長)

- ・まずはこれでやってみてもらえればいいかなと思うが、いかがだろうか。
- (平井委員)
- ・昼食会があるが、それが帯貸しだと繋がらないとなると、やはり時間貸しになるのか。
- (小澤委員長)
- ・そういう可能性はある。
- (角委員)
- ・シミュレーションしてみると良いのではないか。
- (川上委員)
- ・利用者視点でいくと色々な借り方があった方が良い。運営する側視点ではなくて、使ってもらうため。指定管理者に頑張ってもらおう。
- (平井委員)
- ・時間貸しが基本なのだが、少し割引になりますというイメージで考えれば良い。
- (角委員)
- ・時間は24時間なのか。
- (事務局)
- ・開館時間中になる。最大で13時間。
- (平井委員)
- ・考え方としては3区分でいくつか分けるより、3時間以上から7時間以上借りた場合には1割引という考え方でも良いのか。8時間以上なら2割引みたいな。
 - ・時間単位だけにしておいて、ある時間以上借りるとウィークリーマンションと同じように割引。
- (小澤委員長)
- ・計算の仕方としては単純になる。
- (川上委員)
- ・指定管理者に、条例の範囲内で、そういう割引メニューを提案してもらえれば良い。
- (事務局)
- ・それはできる。
- (角委員)
- ・条例でフルスペックに書かれていても、柔軟性はある。
- (小澤委員長)
- ・割引は、上回るサービスになるのか。
- (事務局)
- ・そう。
- (平井委員)
- ・ここには変に割引を書かない方が良いのか。
- (事務局)
- ・割引という書き方は良くないが、料金設定を最初から低めの設定にしておくという感じ。それをさらに、指定管理者さんのほうで時間貸しでも割引など、そういう対応をしていただくのはいいのかなと思う。
- (小澤委員長)
- ・次は2番の開館時間。これについてはいままで何回か話に出ていたが、9時～22時までというご提案はどうか。カフェについては弾力的に運営する。
 - ・3番の撮影料についても、事務局からの説明もあったが、こういう形でご提案いただいている。
 - ・金額については都市公園条例に定められているものを参考に検討するという事なので余地がある。
- (事務局)
- ・これでなければいけないというものではない。
 - ・理由として一番説明しやすい。
- (角委員)
- ・市の基準に合っている方が面倒くさくない。

(小澤委員長)

- ・我々と指定管理者でこれを参考にしながら金額を設定することになるのか。

(事務局)

- ・基本的にはそう。これを上限として定めていただく形。これより低い金額を設定していただくということもあり得る。

(角委員)

- ・函館ではこういう事例はあるのか。

(池ノ上委員)

- ・例えば、いま出ているものにプラスのサービスをする場合に料金が取れるのか。機材の手配や、当日の運搬のお手伝いなどが考えられる。

(平井委員)

- ・それを上回らない、下回ることを考えると何か決めておいた方が良いか。
- ・例えば、機材を前日に入れて保管するときにはお金をいただくみたいな。

(小澤委員長)

- ・札幌市さんにそういう事例はないか。

(事務局)

- ・特にお手伝い業務として市で設定しているものは我々の所管ではない。
- ・あとは、その指定管理者さん次第でお手伝いをやるという考え方と、お手伝いは料金をいただければやるという考え方の2つがあると思う。

(小澤委員長)

- ・お手伝いを、料金を別にいただいてやるというのは特に規定上問題ないのか。

(事務局)

- ・あくまでも指定管理者の取組のひとつという位置付けになる。そもそも、お手伝いはやらないという前提での貸室業務として、いまのところは料金設定を考えている。

(小澤委員長)

- ・そうなるとお金を取るというのはプラス α のサービスになるということか？

(事務局)

- ・そうなる。もしくは、考え方によっては、そもそも指定管理者募集時に、仕様書のなかに「こういうときは手伝い業務を行う」というのを盛り込む考え方もある。それを指定管理費のなかに盛り込む。
- ・まだどういう事例があるのかというのが、具体的に実績がないのではつきり金額を出しにくい。

(平井委員)

- ・その他のサービス業務で、コーヒーを出すとかサンドウィッチを出すなども考えられる。
- ・あくまで施設使用料だから、それ以外のプラス α のものは変動していないものだから下回らないから良い。

(小澤委員長)

- ・写真撮影とカフェの貸切がセットになっているものをお貸しするなどあるかもしれない。

(事務局)

- ・前回も言ったが、撮影料を取るというのは我々が所管している他の施設がない。婚礼前の写真撮影を永山邸でやっていただいていた方がいまは清華亭でやられている。
- ・そういう方々がそのまま清華亭に留まってしまわないかという懸念がある。
- ・一方が取っていて、一方が取っていないという状況なので、運用のなかで工夫・アピールしていくしかない。

(小澤委員長)

- ・その辺もアドバイザー会議なども含めて検討になる。
- ・4番のソフト事業で参考資料をつけていただけたけれども、これについてご意見はあるか。
- ・いままでの議論を参考に作っていただいているということか。

(事務局)

- ・地域の意見交換会のときに、どのように活用したらいいかというイメージを少しでももってもらうために集めた資料になっている。

(川上委員)

- ・一過性のイベントに留まらず、継続して続けていくことで市民の人達の活動に繋げていくことを、かなり意識したソフト事業を展開しないといけない。もちろん一過性のものがあるのも問題ないが、ワークショップなどに繋がると思う。例えば、公園と一体となった取組は、他の文化財にない強み。永山記念公園で色々なソフト事業を展開していける。

(事務局)

- ・左側に記載している、昨年度検討した活用方針の「歴史を知り、深く学ぶ」「歴史的な空間を体感する」「新たな層、多様な層を呼び込んでいく」「新しいまちづくり活動が生まれる」「新しいものと歴史的なものが融合したリノベーション」「公園や外の環境との一体的な環境」というところを意識して、プログラムを整理している。
- ・建物などに愛着を持ってもらえるような人材を発掘して育てていけるプログラムということで、すでに実際にやっている写真を載せているので、このような活動をさらに膨らませていければ良いというイメージ。ガイドツアーやまちあるき、ボランティアガイドに入ってもらいお話してもらえるような人を育てていくプログラムを是非やっていただければと盛り込んでいる。
- ・次に、周辺と繋いでいくということで、インフォメーションスペースと連携して、みんなで地域の宝探しをするなどし、そのなかでツーリズムやツアーマップをみんなで作っていくもの。周辺施設と連携したイベントプログラムというの、地域団体である創成東開拓史プロジェクトさんと土木部さんが一緒にやった、まちなかを歩きながら、ある場所でピザを作ってみて食べるなど地域の食材を集めて作って食べる、あるいは公園さんのほうで子ども達を集めて軟石を使ってものを作るという、少し歴史と関係したワークショップをもうすでにやられているので、そういうものを膨らませていく。新しいものとしては、アートイベントのようなものも入れていくことで、歴史と新しいものの融合があるのかなというイメージ。
- ・右側が、居場所を作る。地域の人達がリピーターになってもらうということで、メインは多目的スペースのような場所だと思うが、子どもが来るようなものから、高齢者を対象としたものまで広くやっていけるのではないかと。特に、過去の意見交換会でも和室を活かしたプログラムが色々できるのではという意見もあったので、そういった事例も集めている。あと、地域の多様な文化活動の場ということで、キッチンがなくてもできるようなものであれば料理教室のようなこともできる。
- ・次に、和室ということで、ヨガや、子育て活動をされている方もいるので赤ちゃんのベビーマッサージなど、そういった方達の場所。その他色々あって、すでにやっているお茶やギャラリーも和室でもやれるような展示の仕方があるのではないかと。
- ・4つ目で、活用方針のなかで収益を出していくこともやっていくという項目もあったので、レストランと連携して相乗効果が高まるようなこと、屋外空間も使い、貸室と連携しながらマーケットやマルシェができるのではないかと。また、昨年提案していただいた、施設のブランディングと連携したグッズを作ることも考えてもらえると良い。市民の方と話すことと違う視点もあるかもしれないが、こういうことに興味がある方が関わるきっかけになればと思い、こういうものを紹介したい。

(小澤委員長)

- ・この資料は地域住民説明会のときのものか。

(事務局)

- ・そのときにこんな活用方針というのがまとまって、事例を見ていただきながら、色々な思い、意見をいただければと作成したもの。

(小澤委員長)

- ・啓発のステップの一部になっていく。
- ・そういう目線でも、こういうアイディアを加えたら良い、あるいは表現をこうしていくべきではないかというご意見はあるか。

(小澤委員長)

- ・2ページ目の、札幌ではない色々な場所の事例を集めているが、このなかですでに札幌でやっているようなものはあるのか。

(事務局)

- ・おそらくほとんど札幌であると思う。
- (小澤委員長)
- ・写真が他の都市から引用になっている。
- (事務局)
- ・歴史的な建物を活用してやっているものということで集めた。また、すごく大きいホールでやるようなものではなく、和室や部屋でやっているようなイメージを集めた。
- (池ノ上委員)
- ・永山邸と三菱鉱業寮自体の中身をみんなで作っていくというのもあっても良い。
- (小澤委員長)
- ・活用方針のビジョンで、1、2、3 とくるが、これが一番上位にくるのだったか。
- (事務局)
- ・頭の一文があったので、それもこの上に入れておく。
- (小澤委員長)
- ・これについても、これから時間をかけて肉付けしていくというやり方でよろしいか。今の時点ではあまりご意見が出ないようなので、今後またご意見いただきたい。
 - ・5 番目のアドバイザー会議の位置付けについて。この委員会は今年度いっぱい、来年度以降の体制ということでご提案をいただいている。これについては、いままでも議論には出ていたのだが、改めてこういう形で明示していただいた。これについてご意見いかがか。
- (角委員)
- ・いままでの委員会が終わったあとに意見を言う立場が曖昧だとまずいのではないか。ある種の責任をもっていかないといけない。その代替組織でアドバイザー会議の一員としてものを言える方が、我々の意見もそれなりにきちんと責任をもって言えるので良いと思う。
- (小澤委員長)
- ・私もこれは必要かなと思っていた。こういう形でしっかりできていると、運営もしっかりしていくと思う。
 - ・説明だと、運営協議会の方が最低年2回ということで、そこにアドバイザー会議から行くのは全員が入るのか。それとも代表者なのか。
- (事務局)
- ・代表1名、もしくは多くても2名を想定している。
- (小澤委員長)
- ・その運営協議会の意見を持ち帰って、アドバイザー会議をメインに置くのか。
- (事務局)
- ・アドバイザー会議は運営協議会の意見を持ち帰ることもあるかもしれないが、どちらかというアドバイザー会議の見解を運営協議会の方に伝える形。
- (小澤委員長)
- ・最初立ち上げのときに色々検討事項があるときに、年1回でいいのかというのはある。
- (事務局)
- ・この委員会と同じく、弾力的に開催できる形にしていきたい。必要があればその都度開催する。
- (小澤委員長)
- ・大体何人くらいのイメージか。
- (事務局)
- ・アドバイザー会議はいまの想定では、いまの委員会のメンバーを想定させていただいている。
- (小澤委員長)
- ・割とフットワークは軽いですね。
 - ・これもこの場で決めると、実際に設置に向かって法的な手続きにいくということか。
- (事務局)
- ・内部での調整がまだ終わっていないので、これを踏まえて進めていきたい。最終確定は次回。
- (小澤委員長)

- ・特にご意見なければこのまま進めて貰えればと思う。
- ・最後の議題、4 地域住民説明会の開催についてということで、資料-5の説明をお願いする。

4. 地域住民説明会の開催について（資料-5）

（事務局）

- ・前回頭出しはさせていただいているので、その後決まったところを説明させていただく。
- ・日程は2月25日（土）。
- ・この日、公園さんの方でも永山記念公園の中で10時～15時まで、イグルーづくりやかまくら、トンネルづくり、そり遊びという子どもを対象にしたイベントを予定しており、その中の1つのプログラムとして1回目、2回目と1時間ずつ時間を取ってやりたい。
- ・場所は、公園さんのほうで公園のなかにテントを作って、薪ストーブを置いて暖を取れる場所を作るということなので、そのなかでやってみようと思っている。
- ・具体的な内容は、事業概要の説明、指定管理者制度の導入、入館料は無料としたい、貸室は有料とする、開館時間9時～22時ということでご相談を地域の方にしたい。そのほか、展示計画を簡単な概略でご紹介、活用のイメージをお見せするなかで活用に向けた意見交換をしていきたい。
- ・テントの中なので、ラフな雰囲気で行いたい。
- ・10時～15時のあいだも事業の概要や永山邸のことが分かるようなパネルや説明資料を置いておき、自由に見られ、1時間ずつ時間を取り、情報提供と意見交換ができればと思っている。
- ・いま順次案内をはじめている。

（小澤委員長）

- ・これについて、ご質問・ご意見等あるか。
- ・当日雪が降っても決行ということか。

（事務局）

- ・その予定。一応、温かい飲み物と軽食を少し用意する。公園さんのほうでも、参加する人達に薪ストーブで焼きたいものがあれば持って来てくださいますということで作る。

（小澤委員長）

- ・本日の議題は以上となるが、全体を通してご意見等ないか。

5. 閉会

（事務局）

- ・次回、第7回検討委員会は、3月30日（木）14時から16時までの予定で開催。